

筑紫（九州）の万葉集と風景画シリーズ（第六十二回）

な ほり やま
「名欲山の歌」

ふんごのくになほり
豊後国直入郡の山「木原山」

・万葉集に詠まれる【名欲山】は江戸後期、享和三（1803）年に完成した豊後国（現・大分県）の地理や歴史等をまとめた『豊後国誌』には、直入郡木原山の項に「三宅郷の西にあり。日本紀は城原きぼりに作る。万葉集に【名欲なほり】となすは即ち此れなり。俗に鉢山となす。」とある。即ち「名欲山」は「木原山」であると記す。

・万葉集には「名欲山」に関連して次の歌が詠われている。

◎藤井連、任を遷まけされて京みやこに上る時に、娘子をとめの贈る歌一首
あす

1) 明日よりは われは恋ひむ
いはふ なら

な 名欲山 石踏み平し
きみ こい
君が越え去なば

卷九—1778

（解説）

明日からは、私はさぞかし恋しくてならないことでしょう。あの名欲山を岩を踏み
ならして越えて行っておしまいになったならば。

◎藤井連の和こたふる歌一首

いのち

ま さき

2) 命いのちをこし 眞ま幸さきくもがも

なほりやま

いはふ

なら

名欲山 石踏み平し また

またも来む

卷九—1779

(解説) 命長くいついつまでも達者でいてほしい。そうしたら、名欲山の岩をこの足で踏みならして、またまた帰って来よう。

◎「名欲山」は豊後国誌などには豊後国直入郡にある山。即ち、今の九州の北東部にある大分県の南西部に位置し、東は大分市、西は熊本県、南は宮崎県、東は九重町と由布市に接し、滝廉太郎の「荒城の月」で著名な岡城址のある大分県竹田市の北部、久住町と境をなす 木原山(669m)だと見るのが通説となっている。

◎また、詠者の藤井連の藤井は葛井ふじいと同じで万葉歌人として有名な葛井連大成ふじいのむらじおおなりまたは葛井連広成ふじいのむらじひろなりのことかと考えられているが両者とも天平年間(七二九〜七四九)

に一つの歌壇を形成していた大宰府とのかかわりの深い人物である。この歌は九州管内から大宰府に参集する各国司(奈良時代に地方を治めるため中央から派遣された官吏)等との交流の中で各国の地名が詠み込まれていったものと考えられる。との説がある。

「写生地」

・JR豊肥線（大分市―熊本市）のほぼ中間地点にある豊後竹田駅から久住方面をつなぐ国道442号線を車で約十分ほど走ると道沿いにある道の駅「城原」きぼる付近にある城原神社近くの台地から遠景に万葉で詠まれた「名欲山（現・木原山）」を描く。（杏花）



「位置図」

〽木原山(名欲山)位置図〽

